

# 管球王国

THE TUBE KINGDOM 2005 SPRING Vol. 36



名機マランツ管球アンプ研究

2A3真空管の聴き比べ

WE597Aドライバー徹底試聴

蓄音機「クレデンザ」修復術

管球アンプ・ブランドの個性

上杉佳郎 | KT88 プッシュプルTAP26

大西正隆 | 2A3 プッシュプルHK9





## ラインナップを拡げるオーディオスペースより AS6iシリーズの第3弾となる KT88プッシュアップのAS6Mパワーアンプと 電源別筐体型のMini 1998の 後継モデルとなる6V6プッシュアップの Mini 2004が発売

———篠田寛一

AS6Mは、AS6iシリーズの第3弾。初代AS6i(KT88プッシュアップ)のモノラル・ヴァージョンという位置付けだ。モノラルならではの優れたチャンネルセパレーションを軸に、一層の高音質化を追求していることをはじめ、AV用途や

5・1chマルチチャンネル・オーディオへの対応を図っている。

回路は、双3極のGT管6SL7で組んだオートバランス型の位相反転段、やはり双3極GT管の6SN7によるドライブ1段、そしてKT88PPのファイナル段という構成だ。なお、KT88は3極管接続またはUL接続。出力は25W(3極管接続、50W(UL接続)。入力は、セレクタースイッチとボリュームを経て初段に入るライン・イン端子と、直接初段に入るダイレクト・イン端子を各1系統装備する。

試聴にはエアータイトのプリアンプATE2HQを使った。最初は3極管接続にして聴いてみる。穏やかで滑らかな中にも、ほどよい厚みや深みを感じる腰の強い音である。その一方、切れ込みや分解能に多少甘いところが感じられるものの、中音域から上の帯域にのった輝きがアクセントになって弦や管楽器を艶やかに、そしてエレガントに奏で、女性ヴォーカルを妖艶に歌わせる。

UL接続では、穏やかでしかも弾力感のある鳴り方など3極管接続と共通する部分も多いが、3極管接続に比べると切れ込みが少しシャープになり、分解能もわずかに高いように感じる。そのため、ディテールがより鮮明に出てくる。

それにパワーが大きくなるだけに、エネルギー感や力感が増してよりダイナミックな表現になる。反面、中・高域の輝きが若干後退する点も否めない。そのため弦や管楽器がマットで控え目な描き出しに

## オーディオスペース Houston Mini 2004 ¥98,000



Mini2004本体のフロント。搭載の真空管は、初段とP-K分割の位相反転兼ドライバー段に中国製の12AX7/ECC83、出力段にエレクトロ・ハーモニクス社の6V6を搭載。フロントパネルにはNFBアジャスターとボリュームを装備。



Mini2004本体のリア。入力端子はCD、AUXの2系統を装備し、ヘッドフォン端子も備えている。



AS6Mのフロント。搭載されている真空管はすべて中国・曙光電子製。位相反転段に6N9P×1、ドライバー段には6N8P×1、出力段にKT88×2。フロントパネルには電源スイッチ、ボリューム、3極管接続/ULの切替えスイッチ、インプットセレクターも装備。



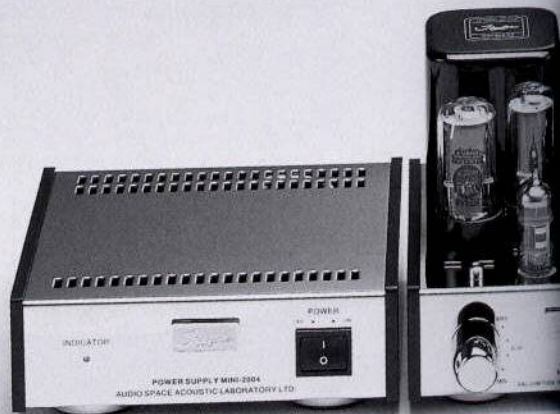
AS6Mのリア。入力端子にはLINEとダイレクト・イン(直接初段に接続される)の2系統を装備。

●出力:13W+13W ●入力端子:LINE 2系統(RCAアンバランス) ●入力感度:100mV~600mV ●入力インピーダンス:250kΩ ●負荷インピーダンス:4~16Ω ●使用真空管:12AX7/ECC83×2、6V6/6P6P×4 ●寸法/重量:W164×H132×D210mm(本体)、W164×H60×D173mm(電源部)/6.5kg(合計) ●問合せ先:カインラボラトリー・ジャパン ☎03(5298)7735

## AS6M

¥196,000(ペア)

●出力:25W(3極管接続時)、50W(UL接続時) ●入力インピーダンス:68kΩ ●出力インピーダンス:4、8Ω ●使用真空管:6SL7(6N9P)×1、6SN7(6N8P)×1、KT88×2 ●寸法/重量:W180×H195×D470mm/15kg



さらに、組み合わせるスピーカーや音の好み、あるいは聴く音楽などに合わせてNFB(負帰還)が6段階に切り換えられるスイッチが前面パネルに設けられているが、これもMini1998から受け継ぐ機能である。入力端子はライン2系統。また、ヘッドフォン端子を装備するなど、より幅広い使い方ができるようになったところも注目される。

この状態で聴くオーケストラはトゥッティや低音部の重量感などを十分に表現するところまではいかないものの、それでも応分のスケール感や勢いを伴って聴く者に迫ってくるし、ヴォーカルも生き生きと躍動的に歌ってみせる。ここは魅力的だ。加えて、価格も手頃。真空管アンプのピギナーにも好適な1台といえよう。

なるが、気になるほどではない。室内楽や女性ヴォーカルなどは3極管接続、オーケストラやジャズを聴くにはUL接続といった具合に、音楽や好みに合わせて使い分ける、言い換えれば、1台で2通りの音を楽しむことができるのも本機の大らかな特徴といえよう。

音の印象は、輝きに満ち、明るく陽気。それに軽快なフットワークで音を歯切れよく弾ませるあたりも好ましいが、こうした鳴り方になりがちな腰高な感じは受けにくい。中域が適度に張り出しているため、それなりの安定感があるのだ。NFBはポジションによって微妙な差があるが、今回の試聴では最小にした時が好ましかった。鮮明さや力感が一番よく出てくるのである。

Mini2004は、Mini1998(6BQ5プッシュアップ・インテグレートッドアンプ)に続く、第2弾製品。真空管に点る紅い灯が鏡のように滑らかなシャイシの表面に映し出される幾何学模様が印象的。回路は、12AX7(ECC83)による初段とP-K分割の位相反転兼ドライバー1段、それに6V6プッシュアップのファイナル段という構成だ。なお、6V6はUL接続固定。出力は13W+13Wである。また、高性能なパワートランスの搭載を軸に強力でクリーンな電源の供給を目指した電源部は、外部の別筐体に収納されている。Mini1998と同じセパレートタイプだ。

Mini1998は、Mini1998から受け継ぐ機能である。入力端子はライン2系統。また、ヘッドフォン端子を装備するなど、より幅広い使い方ができるようになったところも注目される。

Mini2004は、Mini1998(6BQ5プッシュアップ・インテグレートッドアンプ)に続く、第2弾製品。真空管に点る紅い灯が鏡のように滑らかなシャイシの表面に映し出される幾何学模様が印象的。回路は、12AX7(ECC83)による初段とP-K分割の位相反転兼ドライバー1段、それに6V6プッシュアップのファイナル段という構成だ。なお、6V6はUL接続固定。出力は13W+13Wである。また、高性能なパワートランスの搭載を軸に強力でクリーンな電源の供給を目指した電源部は、外部の別筐体に収納されている。Mini1998と同じセパレートタイプだ。

Mini2004は、Mini1998(6BQ5プッシュアップ・インテグレートッドアンプ)に続く、第2弾製品。真空管に点る紅い灯が鏡のように滑らかなシャイシの表面に映し出される幾何学模様が印象的。回路は、12AX7(ECC83)による初段とP-K分割の位相反転兼ドライバー1段、それに6V6プッシュアップのファイナル段という構成だ。なお、6V6はUL接続固定。出力は13W+13Wである。また、高性能なパワートランスの搭載を軸に強力でクリーンな電源の供給を目指した電源部は、外部の別筐体に収納されている。Mini1998と同じセパレートタイプだ。